

# ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 50 2015.2

## 特集

## 震災の記録の継承と新たな提供の試み

震災を経て、集めた記録をもとに新たな情報を発信します。



東日本大震災直後の宮城県図書館



「東日本大震災文庫」開設



震災関連資料のデジタル化作業

今年の十二月六日、仙台市地下鉄の東西線開業が見込まれ、「八木山動物園駅」が終着駅となります。この時期に、ベープルース像建立の経緯を詳しく紹介する本を完成させようと思っています。お子さんにも分かり易く表現する積もりです。本のタイトルは「仙台のベープルース」。その節は、ご二読頂けましたら幸いです。



この時ルースが日本での待望の初ホームランを放ったのが、第四戦の十一月九日、今の動物公園にあった八木山球場だったのです。その記念日、二〇〇二年（平成十四年）十一月九日、ホームランの落下地点で像の除幕式を行いました。私も、像建立の発起人の一人でした。第二次大戦中、日本の野球は一時中断され、多くの選手が戦場で亡くなりました。このベープルースの像には、野球が出来る「平和のシンボル」としての意味合いも籠められています。

「ベープルースの銅像」を目にします。かつてヤンキースに在籍、「野球王」と呼ばれたベープルースの像です。ご存じのように、ヤンキースには現在、元楽天イーグルスの田中将大投手が在籍しています。ルースは、日本に一度だけやって来たことがあります。一九三四年（昭和九年）の秋、全米選抜チームの一員として来日しました。日本で東京六大学のOB選手を主体とした全日本チームと十八試合行ない、全勝して帰国しました。

## 仙台のベープルース

吉岡 徹也

# 震災の記録の継承と新たな提供の試み

## 東日本大震災文庫と「東日本大震災アーカイブ宮城」(仮称)

東日本大震災から4年が経過します。宮城県図書館では、震災に関するさまざまな記録を収集・整理し、利用者の皆さまにご利用いただけるようにしております。震災による被害の記録や体験記はもちろん、復旧・復興への確かな歩み、震災を契機に始まった防災・減災への取り組み、再び立ち上がった、あるいは新たに生まれたコミュニティで提供される情報も、震災に関わる記録であり、故郷の大事な記憶です。

本号では、これまで収集した記録の一部をご紹介します。あらため

て東日本大震災からこれまでを振り返り、宮城県図書館における資料収集・整理状況をお知らせします。

また、県図書館の主導により、県と県内市町村とが連携して、それぞれがこれまで収集または作成した震災関連記録を、デジタル化してインターネットにより広く発信するためのアーカイブシステムを構築してきました。本年3月上旬の稼働に向けて作業を続けているアーカイブシステムについてもご紹介します。

### 震災関連資料の現在の収集・整理状況

宮城県図書館ではこれまで、震災関連資料として図書3,117冊、雑誌1,091冊、新聞27点、視聴覚資料47点を収集しました(平成27年1月末現在)。特に図書や雑誌は、図書館3階東側の新聞・雑誌室の一面に「東日本大震災文庫」として書架3本に配架し、どなたでも手に取ってご覧いただけるようにしております。また、資料は複数収集することにより、貸出用資料を別に配架し、あわせてご利用いただけるようにしております。

チラシやポスターといった、1枚で情報が完結する資料は、4,500点収集しました。これらの一部はファイルに収めてご覧いただけるようにしておりますが、未整理のものもあるため、順次整理をすすめて早期にご覧いただけるようにしていきます。



### 収集時期により変化してゆく資料の内容

震災直後から1年の間に収集した資料の内容を俯瞰すると、震災による被害、被災の体験、避難所での運営といった記録が主となっています。記録集の多くは、震災の状況を写真とともに伝えることで、悲しみのなかから立ちあがる人々を取り上げています。また、被災した人々がそれぞれの体験を文字にし、多くの人々の共感を呼びました。さまざまな分野の専門家による地震・津波への解説が出され、あらためて東日本大震災の全容が明らかにされていきました。震災から2年目以降になると、震災を契機に防災・減災への新たな考え方、取り組み、方法が論じられるようになっていきます。このことは特に、今後同規模の被害が想定される地震や津波だけではなく、火山噴火などの他の自然災害に対しても高く意識されるようになっていきます。



### 今後の取り組み—アーカイブシステムの構築

宮城県図書館では平成25年度から、総務省による補助事業として、県内33市町村と連携して、これまでに収集または作成した震災関連の30万点を超える資料を選定し、資料の権利者(著作権者等)の許諾を得てデジタル化し、インターネットで公開するアーカイブシステム構築に着手しました。このシステムを使って、デジタル化された資料をインターネットにより広く発信し、利用者にいつでもどのような場所でも情報を提供できるようにするため、県庁各部局、公立学校、公立病院、県内社会福祉協議会にも広く呼びかけて資料を収集しました。また連携する市町村にも、各役場等で作成・撮影した資料を提供していただきました。

日本全国に東日本大震災に関するデジタルアーカイブが多数存在しますが、自治体が広範囲に連携してアーカイブを構築するという事例は初めてのものとなります。また、国立国会図書館が運営する東日本大震災デジタルアーカイブ「ひなぎく」と連携することにより、一元的に震災関連資料を見ることが可能となります。

宮城県図書館では、これまで試験稼働を行うなど、本年3月上旬の稼働に向けて作業を進めています。このアーカイブを多くの方々にご覧いただき、あらためて東日本大震災の被災状況、県内各地の復旧・復興の足跡を知っていただこうと考えています。このことは、今後の防災・減災のための新たな創造と計画に資することを目的としており、宮城県内だけではなく広く全国に発信して利用していただきたいと考えています。また「見る」アーカイブから、「使える」アーカイブとして、復興計画、防災計画、これからの災害に強いコミュニティづくり、まちづくりに活かしていただきたいとも考えています。



## 『東日本大震災アーカイブ宮城』(仮称)の3月上旬稼働に向けて

前のページでもお伝えしましたとおり、県内33市町村と連携して、震災関連資料をインターネットから見ることで『東日本大震災アーカイブ宮城』(仮称)を平成27年3月上旬の稼働に向けて作業を続けています。

本アーカイブでは、宮城県及び県内33市町村で収集・保存している震災関連の文書・写真資料などを高精細画像で保存し、検索・閲覧することが可能です。また、ここに掲載された資料を、地域や学校における防災教育等に活用することも可能です。

なお、具体的な公開日は、本館ホームページにて、決まり次第お知らせします。

アクセスURLは、

<https://kioku.library.pref.miyagi.jp>

となります。

震災記録の伝承にぜひご活用ください。



## 平成26年、秋の読書関係各賞 — 宮城県からの受賞者紹介

毎年、秋の「文字・活字文化の日(10月27日)」や「読書週間(10月27日～11月9日)」にちなんで、関係団体が主催し、読書活動の推進や図書館活動の発展に貢献された方々を表彰している各賞について、平成26年の受賞者の皆様をご紹介します。

### ●第8回「朝の読書大賞」は、柴田町立船岡中学校が受賞されました。

この賞は、公益財団法人高橋松之助記念顕彰財団が平成19年に創設し、文字・活字文化振興法の理念に則り、読書推進と文字・活字文化振興に貢献し、顕著な業績をあげた学校及び地方公共団体、団体、個人を顕彰しているもので、10月27日の表彰式では、全国から小学校、中学校、高校が各1校ずつ表彰されました。

柴田町立船岡中学校は、10年程前から朝読書に取組み、落ち着いた雰囲気の中で学習に向かう姿勢を育ててきました。平成25年からは、柴田町図書館から司書が派遣され連携した取組により、学校図書館の利用者数が増加するなど、地域の模範となる活動を行っています。

※出典:「公益財団法人高橋松之助記念顕彰財団」ホームページ掲載「受賞者決定のお知らせ」(<http://www.takahashi-award.jp/award/08/index01.html>)

### ●第44回野間読書推進賞は、成田和子さん(多賀城市)が受賞されました。

この賞は、公益社団法人読書推進運動協議会が秋の「読書週間」の一環として昭和46年に創設し、永年読書の普及に貢献してきた団体、個人を顕彰しているもので、11月7日の表彰式では、全国から4団体、個人3名が表彰されました。

成田和子さんは、読み聞かせ活動の一方、平成15年に多賀城市立図書館ボランティア連絡会を結成し、読書活動の推進と市立図書館の支援活動を行ってきました。東日本大震災ではご自身も罹災されましたが、避難所で絵本の読み聞かせ活動を続け、市立図書館で「青空おはなし会」を開くなど、子どもたちのために献身的にボランティア活動を行ってきました。

※出典:「読書推進運動No.565」(読書推進運動協議会、平成26年12月15日発行)

### ●第100回全国図書館大会記念「図書館を支援する個人・団体等への感謝状」が、白石市図書館ボランティア、仙台朗読奉仕の会、鶴岡信好さん(仙台市)に贈呈されました。

10月31日には、第100回全国図書館大会(東京大会)を記念して、公益社団法人日本図書館協会から、図書館の活動を支援し、図書館文化の普及に牽引力となっているとして、全国103団体(個人を含む)に対して感謝状が贈られました。

本県では、白石市図書館ボランティア、仙台朗読奉仕の会、宮城県図書館読み聞かせボランティア指導員・鶴岡信好さんが表彰されました。

また、東日本大震災で被災した図書館の支援活動を行った団体では、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会とsaveMLAK、外国団体では「どんぐり・アンミんなの図書室」(名取市図書館)の支援活動によりカナダ連邦政府ほか3団体、「コアラ館」(南三陸町図書館)の支援活動によりオーストラリア・ニュージーランド銀行、ほかにアメリカ図書館協会など、計8団体が感謝状を受けました。

※出典:「第100回全国図書館大会感謝状贈呈者一覧」(大会配布資料)

文字・活字文化の日/「文字・活字文化振興法」(平成17年施行)で、広く文字・活字文化についての関心と理解を深めるために設けられ、10月27日と定められている。(第11条)。

読書週間/公益社団法人読書推進運動協議会が主催。毎年10月27日から11月9日までの2週間を読書週間とし、読書活動の普及・推進を趣旨とした関連事業を実施している。第1回は、昭和22年。



## 図書館 around the みやぎ

### シリーズ第43回 色麻町公民館図書室

色麻町公民館長 小川 勝敏

色麻町では、平成26年4月に小中一貫校「色麻学園」が開校し、学校図書館が地域のみなさんに開放されています。学校図書館の中には公民館図書コーナーも併設されており、子どもも一般利用者もそれぞれの本を自由に読むことができ、町民と児童生徒の交流や地域の読書活動の活性化につながると考えています。

学校図書館には、一般利用者専用の出入り口とトイレを設けています。畳敷のスペースもあって、子ども連れにも好評です。これまで常駐していなかった嘱託司書も勤務しています。蔵書は少ないながらも、新聞5紙と雑誌12種類も並べ始めました。季節ごとにミニ企画展を実施したり、今話題の本を展示し紹介しています。また、学校と連携して子ども司書の養成にも取り組んでいます。

多くの町民のみなさんが気軽に訪れることができ、本に親しみ心穏やかにくつろげる憩いの空間として、あたたかく愛着の持てる図書室を目指しています。

このほか、町では3,000冊の本を積んだ移動図書館車「なかよし号」を導入して、幼稚園・保育所、子育て支援センター、各地区集会所を毎月1回巡回しています。幼稚園や保育所の巡回時には、読書ボランティアによる小さなおはなし会も実

施しています。

読書はきっと心を豊かにしてくれるはず。町民と本をつなぎ読書のすばらしさ、大切さを多くの町民に伝えていきたいと考えています。



### 色麻町公民館図書室

蔵書冊数/10,506冊

開館時間/午前の部 午前10時30分～正午  
午後の部 午後1時30分～午後6時

●閉館日/日曜日、祝日、年末年始など

住 所/〒981-4122

加美郡色麻町四電字狐塚37番地1  
色麻学園学校図書館内

電 話 色麻学園 0229-65-2409  
公民館 0229-65-3110

インフルエンザは、例年1月から3月頃にかけて流行します。今シーズン(2014-2015)は例年より数週間早く、年末から患者発生数が増え始めました。インフルエンザを、通常の風邪と同じ感覚で捉える方もいるかもしれませんが、全身の関節痛や突然の高熱、小さな子どもにはインフルエンザ脳症などの合併症も引き起こすウイルス性の感染症です。世界的な大流行(パンデミック)をおこしたインフルエンザである、スペインかぜ(1918-1919)では、全世界で4000万人以上が命を落としたと言われていました。これは、同時期の第一次世界大戦における戦死者1000万人を大きく上回ります。

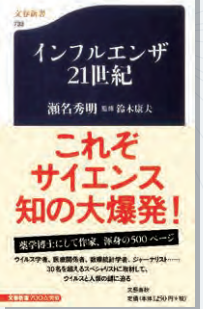
感染症に国境はありません。人や物の行き来が、より自由になった現代に、再びパンデミックが現れたらどうなるのでしょうか。実際2009年に、新型インフルエンザが大流行し、多くの混乱がありました。その舞台裏を、関係者へのインタビューを通して描いたのが本書です。著者の実父で生化学者の鈴木康夫氏を初め、様々な地域・多様な分野で活躍する専門家との対話を通して、作家らしい緊迫した描写を交えながら、公衆衛生について社会心理学等も含めた分野横断的な考え方が必要であることが描かれます。

インフルエンザ・パンデミックの予防と対策は、実は、地味で簡単な行為の積

み重ねです。手洗い・マスク・ワクチン接種等は、万能でなくとも、それぞれ少しずつ感染拡大のリスクを抑えます。本書で触れられている、1994年に副作用が懸念されて学童ワクチン集団接種が中止された後、高齢者も含めた死亡率が上がったという事例は、公衆衛生の考え方を学ぶ良い材料です。どのような対策も、個々の効用と副作用のバランスを考えながら、社会全体のリスクを抑えることを目標にする必要があります。

本書では、様々な感染症対策の取り組みも紹介されており、中でも興味深かったのが、感染症に地理情報システム(GIS)を適用した研究です。人の流れと街の混雑度から、今、自分が街に出かけた時の感染する確率を予測できるようにすることも示唆しています。天気予報や道路の渋滞状況をチェックするように、インフルエンザの感染確率を、携帯電話でチェックする時代が、いずれ来るかも知れません。

企画協力班 眞籠 聖



## 図書館からのお知らせ



## INFORMATION

### 東日本大震災文庫展V「後世に残す記憶 ふりかえるあの時」を開催します。

東日本大震災から4年を経て、これまで県図書館が収集・整理した震災や復興の記録を紹介します。

県内の様々なところから集めた記録は、ふるさと宮城の貴重な歴史的資料であり、後世に残していかなければいけない財産でもあります。これらの記録を紹介しながら、近く公開する「東日本大震災アーカイブ宮城」(仮称)についても紹介します。

- 期間 平成27年3月11日(水)～平成27年6月26日(金)
- 時間 図書館開館日の午前9時から午後5時まで
- 場所 宮城県図書館 2階 展示室
- お問い合わせ 震災文庫整備チーム TEL:022-377-8498

### 第46回子どもの本展示会を開催します

毎年4月23日から5月12日までは「こどもの読書週間」です。宮城県図書館では、この期間にあわせて、子どもの読書活動を推進するために「子どもの本展示会」を下記の日程で開催します。平成26年に出版された本の中から約2,000冊を選び、絵本や読み物、知識の本、児童書研究書などを展示します。

児童書を選ぶ時の参考として、また新しい本との出会いの場として沢山の方にご来場いただければと思います。図書館にお越しの際には、ぜひ立ち止まって手に取ってみてください!

なお、本展示会終了後は子どもの本移動展示会として、希望する各市町村図書館や公民館、小・中学校等を巡回する予定です。

- 期間 平成27年4月23日(木)から5月12日(火)
- 場所 図書館 1階エントランス
- 時間 開館日の午前9時から午後7時(日曜・祝日は午後5時まで)
- お問い合わせ 子ども図書室(2階) TEL:022-377-8447



### 平成27年3月27日(金)の閉館時刻が変更になります。

平成27年3月27日(金)は館内整理のため閉館時刻が通常よりも早まります。利用者の皆様には、大変ご迷惑・ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- 変更前 午後7時閉館 → ●変更後 午後1時閉館

## 表紙エッセイ 著者紹介

### 吉岡徹也 (よしおか てるや)

- 1959年 東北放送へアナウンサーとして入社。
- 1973年 東北以北での初ナイター「ロケット近鉄戦」をラジオ中継。
- 1996年 東北放送を定年退職。
- 2000年～2002年 「ペープ・ルース像」

建立に尽力。  
現在は、コミュニティーFMで川柳番組「川柳575便」を担当中。  
TBCアナウンス学院講師。  
座右の銘・・・「言葉は人なり」

## ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル『ことばのうみ』は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典『言海(げんかい)』(1889～1891年刊行)に由来する。

### 第50号 2015年2月発行

編集・発行 宮城県図書館

〒981-3205  
仙台市青葉区紫山一丁目1番地1  
TEL022-377-8441(代表)  
FAX022-377-8484  
ホームページ  
<http://www.library.pref.miyagi.jp/>

## 学位取得・キャリアアップ・社会貢献…「学ぶあなた」を応援します

放送大学では平成27年度第1学期(4月入学生)の学生を募集中です。放送大学では、授業科目の番組をBSデジタル放送で無料の配信を行っています。(テレビ231CH ラジオ531CH)。

放送大学には、好きな科目を好きなだけ学ぶコースと、大学卒業等を目標として学ぶコースがあります。

心理学・健康福祉・歴史学・外国語・社会・経済・情報・文学・芸術など、幅広い分野の300を超える科目の中から、希望する科目を「1科目」から学ぶことができます。

大学の授業料(テキスト費込み)は、半年間1科目(2単位)当たり11,000円で、登録科目数を納入すればよいので、ムダがありません。

また、大学の入学料は、卒業を目指すコースで24,000円、好きな科目を学ぶ一年間のコースで9,000円、半年間のコースでは7,000円です。

例えば、卒業までの124単位を修得の場合、入学料・授業料の合計は約70万6千円で、学費の負担が少なく、とても経済的です。

放送大学宮城学習センターでは、様々な目的で、幅広い世代や職業の約2,000名の学生の方が、自分のスタイルで学んでいます。

入学のチャンスは年2回。4月と10月です。詳しくはお気軽にお問い合わせください。

### 【4月入学出願期間】

【第1回募集】平成26年12月1日(月)～平成27年2月28日(土)

【第2回募集】平成27年3月1日(日)～平成27年3月20日(金)

### 【出願方法】

出願は、「郵送」または「インターネット」のいずれかの方法になりますが、詳しくは放送大学のホームページをご覧ください。

### 【10月入学出願期間】(予定)

平成27年6月15日(月)～平成27年8月31日(月)

※出願期間に変更になる可能性があります。詳細はホームページ等でご確認ください。

## 広告



宮城学習センターの赤レンガの建物は、大正12年に開設された東北帝国大学理学部生物学教室の施設として建てられたもので、当時の仙台では珍しい鉄筋コンクリート構造の建物でした。



放送大学は、放送大学学園(文部科学省総務省所管)によって設置された正規の通信制の大学です。

### 〈問い合わせ先〉宮城学習センター

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1番1号(東北大学片平地区内)

電話 022-224-0651 FAX 022-224-0585

✉ miyagi-sc@ouj.ac.jp

放送大学 検索